

2024年4月

敬愛します諸教会の牧師先生、兄姉の皆様

ロシア宣教とこの者のために、尊いお祈りとおささげものをありがとうございます。ロシアは不安定な政情が続き、日本のニュースでも報道されていましたが、サンクトペテルブルグ市内と郊外で、ドローン爆破事件が起っています。大事には至っておりませんが、続けてお祈りください。



昨年の6月から母（86才）の介護が必要になり、デイサービスやショートステイを取り入れていました。1月には、半年ぶりに教会に行くことができました。ほとんどのことを秒で忘れる母が、教会に行く前夜に聞いたことを翌朝も覚えていたことや、着ていく服をうれしそうに用意する様子を見て神様に感謝しました。けれども老人介護施設に入所することになり、3月に再帰国しました。入所した1週間後、私がロシアに戻る日に入院となり、さらに3週間、日本滞在を延長することになりました。

父（89才）は一人の生活になってしまったので、週1でヘルパーさんに手伝っていただくことになりました。（写真：老人介護施設にて両親と）

カザンスカヤ教会では、1月にジニース兄の葬儀がありました。彼は12年ほど前に来会され、1年後に奥様のビクトリアさんが、そしてその2ヶ月後に小学4年生だったビクトル君が来会し、毎週家族で礼拝を守っていました（右：当時の家族写真）。ジニース兄は、幼少の頃から祖父母に連れられてバプテスト教会に出席していたそうです。その後は教会生活から離れていました。結婚して、奥様から育児の難しさについて相談を受けた時に、もう一度、神様に心を向けることができたそうです。でもその頃の彼は、アルコール依存症の問題がありました。けれども、その試練を通してビクトリア姉の信仰は強められていき、4年前にバプテスマを受けられました。ビクトル君は教会生活から離れていますが、ジニース兄はいつも家族のために祈り、本当に忠実な信徒でした。急性心筋梗塞ということでしたが、まだ42才でした。残されたご家族のためにお祈りください。

また、5才から日曜学校で教えていたジーナ姉は今22才ですが、コロナ禍以降、教会生活から離れています。少しずつですが、個人的に聖書の学びをともに始めることができるようになり感謝しています。1月には、3年ぶりに礼拝に来てくれました。



インターナショナルアカデミー（IA）は、昨年8月の新年度（2023-2024年）の在校生は20人未満でしたが、現在40人近く与えられています。6月に、開校30周年の記念会が行われます。

IAを通して、これまで100人以上の日本人の子どもや父兄が福音を聞かれ、また救いに導かれました。昨年の侵攻によって、今後の日本人生徒入学はなくなってしまいましたが、天に召されたジニース兄やジーナ姉のように、子どもの時に蒔かれたみことばの種がいつか芽を出すこと、そして実を結ぶことを覚えて、福音宣教の働きのために用いられますようにお祈りください。